こしみず

議会だより

NO.210

第4回 町議会臨時会

第４回臨時会は、７月３１日に開会し、補正予算等について審議・可決し閉会しました。

補修予算 可決

平成29年度小清水町一般会計補正予算

小清水ツーリストセンター整備に係る工事請負費等を追加計上したもので歳入歳出予算の総額に、それぞれ3千620万8千円を追加し、歳入歳出予算の総額を48億7千537万円とするものです。

指定管理者 可決

小清水町ふれあいセンター

▼指定管理者
シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社
代表取締役　関口 昌太朗

▼指定期間
自　平成29年10月1日
至　平成34年9月30日

小清水ツーリストセンター整備工事（建築主体）にかかる契約の締結

▼契約先
株式会社 北興

▼契約金額
1億9千278万円

委員会レポート

総務文教

総務文教常任委員会は、所管事務調査として、7月4日から6日の3日間、全道町議会議員研修会の参加に合わせ、次の3点について道内行政視察を行いました。

また、7月20日には小清水高等学校3年生による、東北視察研修報告会に参加しました。

【道内行政視察調査項目】
① 自然環境保護について
② インバウンド施策について
③ 議会改革について

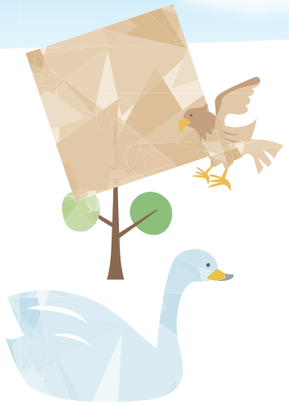
自然環境保護について
苫小牧市 ウトナイ湖
・野生鳥獣保護センター
・サンクチュアリネイチャーセンター

野生鳥獣保護センターでは、ウトナイ湖の自然及び渡り鳥の種類や生息環境を学習し、傷病鳥獣収容施設なども視察しました。施設の運営及び事業内容について説明を受けた中で、本町と自然環境面での共通点はあるものの、施設を町単独で管理運営をするには課題が多いと感じました。しかし、涛沸湖と同じくラムサール条約湿地として登録されており、年間6万人以上が訪れていることに着目すると、本町の自然環境を武器にしたまちづくりの可能性を感じました。

サンクチュアリネイチャーセンターでは、自然保護や環境教育の拠点としての活動について日本野鳥の会チーフレンジャーから活動状況の説明を受けました。

バードウオッチングプログラムはセンターが用意する活動の一部で、観光的な要素はほとんどないものの、

日本野鳥の会が育成したレンジャーを派遣することや、委託により自然環境保護や見学者へのガイドをすることは可能であることが分かりました。



インバウンド施策について
倶知安町

規制緩和によりコンドミニアム建設を促進したことで、スキー場を中心に外国人観光客の入込が増加となっていました。また、このインバウンド効果に併せ、北海道新幹線停車予定駅ということもあり、観光地として投資価値のある地域となっていました。地価の上昇率は3年連続で日本一となっており、人件費や物価が高騰するバブル的な好景気であることに課題を感じました。

また、国の補助事業では、倶知安町・ニセコ町・蘭越町で構成されるニセコ観光圏構想がすすめられていましたが、今後の経済効果が期待されるにとどまっていました。

議会改革について
倶知安町議会

倶知安町議会では、議会改革を目的に、地域の課題を把握することを目的に行う「まちなか懇談会」や町民に行政の情報を報告・説明すると伴に、議会や町政に対する意見や提言を聴取する場として「議会報告会」を実施していました。報告内容は、議会の決定事項のみであり、議員個人の見解を述べることはしていないとのことでした。

経済厚生

経済厚生常任委員会は、所管事務調査として、7月14日及び8月4日に委員会を開催し、根室市への行政視察、農作物の作況調査を実施しました。

【東北視察研修報告会】

小清水高等学校3年生による、東北視察研修をとおして学んだ、減災や防災についての報告会が開催されました。

【根室市行政視察】

「ネイチャーセンターの運営について」
根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター

本町のバードウォッチングを起爆剤とした欧州インバウンド受け入れプロジェクトに関し、先進地である根室市を視察しました。

専門的な知識や外国人に対応する語学力の他、周辺地域における自然等、さまざまな情報提供を求められることが分かりました。